

近代⑤「明治時代後期」

日露戦争とアジア B



1. 次の問いに答えなさい。

(1) 日露戦争の講和条約は、講和会議が行われた場所の地名から何と呼ばれているか。

[1]

(2) 1894年に、イギリスとの間で領事裁判権（治外法権）の撤廃に成功した、日本の外務大臣はだれか。

[2]

(3) 1911年におこった辛亥革命により、翌1912年に、南京を首都として成立した国は何か。

[3]

2. 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

欧米列強にならぶ強国をめざす日本は、朝鮮半島での影響力を強めようとして清と対立し、日清戦争に勝利した。さらに、あロシアが満州への南下を進めたため、日本は、い日露戦争を決意し、この戦争でも勝利を収めた。相次いで強国をやぶった日本の国際的地位は高まり、悲願であった条約改正を達成した。このころ、軽工業が大きく発達し、八幡製鉄所がつくられるなど、重工業も発達し始めた。その一方で、足尾銅山鉱毒事件などの問題も発生した。

(1) 下線あの動きに対抗することで利害が一致し、1902年に日本はヨーロッパのある国との間で同盟を結んだ。この同盟を何というか。

[4]

(2) 下線いについて述べた文として不適切なものを次から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 東学を信仰する人々による甲午農民戦争がきっかけとなって開戦した。
- イ 日本海海戦で、日本の艦隊がロシアの艦隊をやぶった。
- ウ 戦後の講和条約に対する不満から日比谷焼き打ち事件などがおこった。
- エ ロシアは、国内で革命がおこり、戦争を継続することが難しくなった。

[5]